

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームやすらぎ	評価実施年月日	平成20年1月22日
評価実施構成員氏名	管理 者 計画作成担当者 スタッフ 中尾 鈴木 遠子内 浅谷 正田 和田 村上 長野 児玉 (ユニット やすらぎ)		
記録者氏名	中尾 鈴木	記録年月日	平成20年2月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中で暮らしていく事の明記はしていないが、地域生活の継続を支えるため、人としての尊厳を大切に、その人らしく暮らしていくことを支えるサービスである事を中心とした理念は作り上げている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝のミーティングの中で理念や基本方針を全員で唱和し、申し送りや関わりの振り返りの時などで確認しあいケアに活かすようにしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域運営推進会議の中や家族個々の関わりの中、グループホーム新聞の活用などで、理念について説明し理解が得られるよう働きかけている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時に挨拶はしているが、ホーム周辺は空き地が広く住宅が点在しており、日常的なふれあいの機会は少ない。	○	レクリエーション行事への参加声掛け、畑作業を教えてもらうなどで行き来のきっかけができるよう取り組みたい
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	敬老会や農業祭りなど利用者とともに参加している。また、近くの系列病院の病院祭りの交流も行っている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	施設の見学を随時行い必要時相談に応じているが、地域の人へ、認知症に対する取り組みや実践を示すには到っていない。	○	キャラバンメイト講習への職員の参加促し、地域へ介護教室の開催や町内会への参加で認知症についてのミニレクチャー開催を検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価を全職員で行い、出来ている点、出来ていない点・課題を明らかにし周知をはかっている。また前回評価を生かし、運営推進会議の開催やグループホーム新聞発行で地域へのアピールが少しずつ出来てきている。</p>	<p>○</p> <p>近隣との関わり、地域への貢献、入居者の自立支援など課題の改善に取り組みたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議で取り上げられた内容について、そのつど経過を報告しあい意見をいただいたり課題を共有しサービスに生かしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の状況に応じて、介護高齢課や生活保護課、障害福祉課等と連携をとりサービスに活かしている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要時入居者・家族へ成年後見人制度の活用を紹介し、市担当者と連携をとり支援している。管理者が対応する事が多く、スタッフの理解周知は十分とはいえない。</p>	<p>○</p> <p>各種制度について勉強会を実施していく</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>系列のグループホームとともに身体拘束廃止委員会を開き、スタッフが委員となって虐待について学ぶ機会を持ったり、虐待防止に注意を払っている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の祭の説明には十分時間を取り、不安・疑問点をくみとり文章と口頭で説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の入居者の言葉や態度から思いを察する努力をしている。また、ユニットに意見箱を設置し利用者に明示している。外部への苦情相談窓口に関しては、入所時に文章・口頭で説明しているのみである。	○	苦情相談担当窓口、連絡先について、ポスター等貼り出し周知していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族訪問時利用者の生活状況を伝え、状態変化時等必要に応じて連絡をしている。毎月金銭出納状況を郵送で通知、グループホーム新聞に生活状況や職員異動情報をのせて発行時郵送している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニットごとの意見箱利用説明、入所時に相談窓口について説明し文書を渡している。家族訪問や電話連絡時は意見を引き出すよう心がけ、出された意見・要望はスタッフ間で話し合い反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングや勉強会、適宜個別面接を行い意見を汲み取るようにしている。不満や苦情は言いがたい部分があるので、併設病院に職員用意見箱があり利用してもらおうようにしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事予定などに合わせてスタッフ人数を調整している。管理者は、夜間の対応など入居者の状態変化に対応できるシフトにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者・家族との信頼関係を築くため、各ユニットの職員を固定化し、なじみのスタッフによる対応を考えている。やむをえず離職や異動になる場合も、時期や引継ぎに最善の努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内で年数回の研修を組んでおり、参加を促している。外部の研修についても、必要に応じて参加の機会をえるよう努力している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センターはじめ、地域の同業者と交流の機会を持っている。また、系列のグループホーム内の勉強会に参加しケアに活かしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>系列病院・施設合同での親睦会、スポーツ等の同好会があり気分転換図れる機会を作っている。また、勤務時間中にも気分転換できる休憩室を確保している。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>資格取得に向けた支援を行っている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>系列病院の地域連携部が初期相談の窓口となっており、大まかな生活情報は連携部から情報を得て事前見学・相談に応じている。情報を基に本人の思いや不安、生活状況を汲み取る努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>系列病院の地域連携部が初期相談の窓口となっている。情報を基に家族の思いや不安、生活状況を汲み取る努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	地域連携部が相談窓口となり行っている。直接電話相談があった場合は、お話を伺い対応し必要に応じて、地域連携部PSWと連絡をとっている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人、家族のGH見学、面接相談を行い雰囲気になじめるよう配慮している。本人・ご家族の都合もあるが、見学回数は1～2回くらいしかできないことが多い。		見学时スタッフの紹介、一緒におやつを食べたりレクリエーション参加するなどの数時間の体験入所、見学回数を増やすなど、本人や家族の希望やご都合にあわせて行うようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	畑や園芸作業など、入居者から教えてもらう場面も多く、他にレクリエーションを楽しむなど共に過ごす時間を大事にしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ケア会議の中で入居者の様子や職員の関わりを伝え、話し合いながら協力関係がとれるようにしている。ご家族の状況によってはなかなか面会に来られない方もいるが、必要時電話連絡取り合ったり、短時間の面会時でもご家族の状況に配慮しながら、様子を伝え、家族の思いを引き出すようにしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人・家族の思いや状況を受け止めながら、時々外出や外泊をすすめたり、行事への参加声かけしている。また、希望時本人と家族が電話連絡取り合うことが出来るよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	数は少ないが、昔の友人への電話連絡など必要に応じて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係性についてスタッフ間で情報共有している。必要に応じてさりげなく声かけしたり、個別に話を聞いて思いをひきだすようにするなど、入居者同士の関係が円滑になるよう働きかけているが、入居者同士の個性を活かし支えあいを引き出すには至っていない。		センター方式の活用、スタッフが間に入ってミニレクリエーションを行う機会を多く持ったりする中で、利用者の個性を活かした関係作りをしていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	心身状態の変化で入院となった場合は、入院先と連携を取り面会に行ったり家族とも連絡を取り合っている。長期入院となったり、他施設入所で契約終了したあとの関わりを持つ機会は、ほとんどない。		今後、必要に応じて連携を取り合ったり、相談に応じていくようにしていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言葉や表情から真意を推し量ったり、生活の場面での希望の把握は出来ている。暮らし方の希望・意向については、意思疎通困難な方には、ご家族から情報を得るようにしている。		センター方式の活用を深めていき、今後も本人本位の視点に立った把握ができるようにしたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人とのちょっとした会話の中や、ご家族・知人が来られたときに少しずつ把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	心身状態や生活リズムの理解に努め、ほぼ把握できているが、本人や家族の言葉だけではわからない残存能力の見極めが課題である。		センター方式の活用を深め、残存能力を引き出す工夫を考えていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	おおよそ3ヶ月ごとにモニタリングを行い、入居者、家族の要望を適切に把握し、それに基づき介護支援専門員を中心に入居者、家族、スタッフと話し合った意見や気づきを反映した介護計画を作成出来るように努めている。		センター方式の活用を深めより良く生活できる介護計画を作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた見直し以外でも、介護計画に変更が必要と判断した時には、介護支援専門員が中心となり本人、家族、スタッフと話し合い現状の範囲で本人、家族の要望を出来る限り考慮した新しい介護計画を作成するように努めている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は介護計画に基づき、実践した結果や取り組み方を具体的に記入するように心掛けている。記録の情報はカードックスにて共有しながら介護計画の見直しに活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、外出の支援をしたり、受診介助等対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者が地域生活になじめるよう、町内会や民生委員と連携を取りイベント参加したり、ボランティアによるレクレーション等協力いただいている。また、消防職員にきていただいて救急時対応(心肺蘇生等)訓練を実施している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	状況に応じて、福祉用具の活用で介護支援専門員の専門業者と話し合ったり、訪問理美容サービスを利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	月1回連携会議があり、ケアマネージャー間で連携をとり必要があれば共働出来る体制ができている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	系列の病院から訪問診療を受けたり、疾患に応じてかかりつけ医での医療を受けられるよう、受診介助等支援し各医療機関と連携をとっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人が精神科を専門とする医療機関であり、入居者は認知症についての診断や助言を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を管理者として配置しており、日頃の健康管理や医療面の相談、対応を行っている。24時間連絡体制をとり、状態の変化にも対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	法人内の医療機関、関連施設と合同の会議を定期的に行い、早期退院に向けた話し合いをしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	加齢や疾患から予測される状態について、入所時から本人や家族に説明し意向を確認して、施設で対応できる事についての話し合いをしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向をふまえて、かかりつけ医と連携を取り予測される事態の対応や急変時の対応について話し合っている。また、入居者のその時々ADLレベルを見極めて必要な支援をしていくようスタッフ間で話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの生活環境や支援の内容、注意点について関係機関と連携を取り情報交換している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録については、他人所者の名前を出さないよう配慮している。ミーティングを活用して、入居者への言葉掛けや関わりについて話し合うことで意識の向上を図るよう努めている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>普段の会話の中で希望や思いを引き出していき、飲み物や食べたいもの、外出等入居者が自分で決める場面を作るようにしている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、入居者の体調やペースに合わせて柔軟に対応している。(外出やレクリエーション、毎日の体操など、する、しない希望を尊重している)</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個々の習慣に合わせ、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。訪問理美容室利用し、希望に合わせてパーマや毛染めを行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事のメニューはある程度決まっているが、可能な入居者には下ごしらえや配膳等一緒に行ってもらい、準備段階から食事を楽しんでもらうように支援している。入居者一人一人の意欲や力を引き出すには至っていない。</p>		<p>センター方式の活用を深め、共に食事準備や片付けが出来るよう、意欲を引き出せる関わりを検討したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者個々の嗜好の把握はできており、外出時に好みのものを購入支援している。酒やタバコについては、希望する入居者がいないため現在は支援はないが、今後希望に応じて検討していく。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者個々の排泄パターンの把握はしており、夜間オムツを使用している入居者もいるが、日中はトイレ誘導を行い、日中のオムツをはずせるようになった入居者もいる。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ユニットごとに入浴の曜日を決めていますが、入居者の希望や外出予定などに配慮して曜日や時間をずらしていくなど配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者一人一人の体調や希望を考慮して、自由に休息がとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	畑の世話や地域の行事参加、外出支援等、役割づくりや楽しみごとを作るよう努力しているが、張り合いや楽しみを引き出すに至っていない入居者もいる。		センター方式の活用を深めて本人の希望に添った役割作りをしていきたい。誕生日会などの催し、そこでの会話を通じて、利用者の個性や生活の姿を理解し活力を引き出す支援をしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談しながら、入居者の状況に応じて、小額のお金を所持してもらい買い物支払い支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望や天候に応じて、入院中の家族の面会に連れて行ったり、買い物等の外出支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	レクリエーション計画立てる中で、入居者が行きたいと思う場所への外出の機会をもうけている。(動物園、日帰り温泉等)		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	事務室の電話は、希望時いつでも使用できるようになっており、気軽に電話をしやすい雰囲気作りを心掛けている。手紙を出す希望はほとんどないが、年賀状を出す支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は定めていず、ご家族や友人がいつでも気軽に来やすい雰囲気作りを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	系列のグループホーム等と共同で身体拘束廃止委員会を発足しており、身体拘束の内容と弊害についてスタッフ理解している。委員会の中でケアの振り返り、自覚のない身体拘束が行われていないか話し合い、スタッフの周知を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の外出傾向、帰宅願望の状況把握はしており、その都度対応心掛けているが、近隣に家が少なく事故の可能性が高いため、日中やむを得ず玄関施錠している。土日の比較的訴えの少ない午前中に開錠していくことからすすめている。		無断外出を未然に防ぐためのケアやかかわりの工夫、近隣の協力の促進をしていき、鍵を掛けないケアを進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、ホールが見渡せるところにスタッフがついて、記録をしたり、入居者と共に過ごしたり、状態把握に努めている。死角になる場所が多いが、自室にいる入居者についても、プライバシーに配慮しながら、昼夜の定期巡回で所在や様子を把握するようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物の管理は危険物チェック表にて確認、洗剤は本数確認しホーム名をつけている。ほか入居者の状況にあわせて管理方法を決めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント、アクシデントレポートを活用、SHELL分析を行い再発防止策を出し、ミーティングなどで情報共有している。系列ホーム共同で事故防止対策委員会を作っており、事故の情報共有化、対策について検討している。リスクマネジメント研修にもスタッフ参加している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを作っており、周知を図っている。消防を招いての救急蘇生訓練はじめ勉強会も実施している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2～3回避難訓練を行っている。また、法人での防災マニュアルをもとに、ホーム独自の災害時マニュアル作成して周知を図っている。地域の協力体制については、まだ確立されていない。		地域運営推進会議を進めていく中で、協力を呼びかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプランの説明の中で個々のリスクについて話しており、入居者本人や家族の意向を確認の上、暮らしの制限を最小限とした対策を共に考えるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具や台所水回りの清潔、衛生を保つよう、スタッフで取り決めをして実行している。食材はほぼ毎日業者から翌日分の食材が必要量届いており、食材が残らないよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関に、親しみやすい表札や飾り付けをしている。冬など季節によっては、飾り付けが目立たなかったりして殺風景になりやすい。		季節感のする飾り付け(アイスクャンドル、花のプランターなど)を華美になり過ぎない程度にやっていきたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	玄関前は季節に応じた飾り付けを行い、廊下や居間に手作りの装飾品や行事の写真を置いて暖かな雰囲気を出すようにしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間にソファとテーブルのコーナーがあり、入居者同士思い思いの場所で一緒にテレビをみている。ユニットの居室側廊下にもソファがあり、時折利用している人もいる。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時に本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や希望の生活用品用意使用されている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	午前中の清掃時に毎日換気をするようにしている。個室についても、入居者の状況に合わせて室温調整、換気をこまめに行っている。トイレについても換気扇や消臭剤使用で臭いが残らないよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホールや居室は障害物や不安定な物を極力置かないよう配慮し、廊下に手すりは取り付けられていて状態に合わせて使用している。 浴室脱衣所に手すりがなく、洗面台や椅子につかまってもらったり、介助している。</p>	<p>手すりの取り付けもしくは、手すりに代わる物を入居者の状態に応じて置くことを検討したい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各部屋、トイレ、浴室に、目線に合わせて表札や目印を付けている。物の置き場所にも配慮し、誤認や錯覚を起こさないように気をつけている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>季節により、野菜作りや草むしり、花の手入れなどを楽しんでいる。</p>	<p>テラスにおけるパラソル、椅子の購入を検討し、屋外で軽食などを楽しめる空間作りを検討したい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> たまにある <input type="checkbox"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3くらい <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> たまに <input type="checkbox"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 心身の状態変化に早期に対応、関係医療機関と連携を取り受診援助している。
 月2回音楽療法実施しており、入居者にも喜ばれている。
 レクリエーション計画立案にスタッフが交代で取り組み、外食や日帰り温泉など入居者とともに楽しむ機会を作っている。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームやすらぎ	評価実施年月日	平成20年1月21日
評価実施構成員氏名	管理 者 中尾 計画作成担当者 朝野 スタッフ 柳沢 伊関 山中 関口 鈴木 品川 (ユニット こもれび)		
記録者氏名	中尾 朝野	記録年月日	平成20年2月4日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中で暮していく事の明記はしていないが、地域での生活の継続を支えるため、人としての尊厳を大切に、その人らしく暮らしていくことを支えるサービスであることを中心とした理念を作り上げている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝のミーティングの中で理念や基本方針を全員で唱和し、申し送りや関わりの振りかえりの時などで確認しあいケアに活かすようにしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域運営推進会議の中や家族個々の関わりの中、また、グループホーム新聞の活用などを通じて、日頃から理念について説明し理解が得られるよう働きかけている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時に会いがある時には挨拶を行っているが、ホーム周辺は空地が広範囲であり、住宅は点在しており、日常的なふれあいの機会は少ない。	○ レクリエーション行事への参加声掛け、畑作業を教えてもらうなどで行き来のきっかけが出来るよう取り組みたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	敬老会や農業祭りなど、利用者とともに参加している。また、近くの系列病院の病院祭での交流も行っている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	施設の見学を随時行い、必要時相談に応じているが、地域の人へ認知症に対する取り組みや実践を示すには至っていない。	○ キャラバンメイト講習への職員の参加促し、地域へ介護教室の開催や町内会への参加で認知症についてのミニレクチャー開催を検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価を全職員で行い、出来ている点、出来ていない点や課題を明らかにし周知を図っている。また前回評価を生かし、運営推進会議の開催やグループホーム新聞発行で地域へのアピールが少しずつ出来ている。</p>	<p>○</p> <p>近隣との関わり、地域への貢献、入居者の自立支援など課題の改善に取り組みたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議で取り上げられた内容について、その都度経過を報告しあい、意見を頂いたり課題を共有しサービスに生かしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の状況に応じて、介護高齢課や生活保護課、障害福祉課等と連携をとりサービスに活かしている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要時入居者・家族へ成年後見制度の活用を紹介し、市担当者と連携をとり支援している。管理者が対応する事が多く、スタッフの理解周知は十分とはいえない。</p>	<p>○</p> <p>各種制度について勉強会を実施していく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>系列のグループホームとともに身体拘束廃止委員会を開き、スタッフが委員となって虐待について学ぶ機会を持ったり、虐待防止に注意を払っている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際説明には十分時間を取り、不安、疑問点を汲み取り、文章と口頭で説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の入居者の言葉や態度から思いを察する努力をしている。また、ユニットに意見箱を設置し利用者に明示している。外部への苦情相談窓口に関しては、入所時に文章・口頭で説明している。	○	苦情相談担当窓口、連絡先について、ポスター等貼り出し周知していきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族訪問時に入居者の生活状況を伝え、状態変化時など必要に応じて連絡を行っている。毎月金銭出納状況を郵送で通知、グループホーム新聞に生活状況や職員異動情報を載せて発行時に郵送している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユニット単位の意見箱利用説明、入所時に相談窓口について説明し文書を渡している。家族訪問や電話連絡時は意見を引き出すよう心掛け、出された意見、要望はスタッフ間で話し合い反映させている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回のミーティングや勉強会、適宜個別面接を行い意見をくみ上げるようにしている。不満や苦情は言い難い部分があるので、併設病院に職員用意見箱があり利用してもらうようにしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事予定などに合わせてスタッフの人数を調整している。管理者は、夜間の対応など利用者の状態変化に対応できるシフトにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者・家族との信頼関係を築くため、ユニットの職員を固定化し、馴染みのスタッフによる対応としている。やむを得ず職員が異動になる場合も、時期や引継ぎに最善の努力を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内で年数回の研修を組んでおり、積極的な参加を促している。外部の研修についても、必要に応じて参加の機会を得よう努力している。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	地域包括支援センターはじめ、地域の同業者と交流の機会を持っている。また、系列のグループホーム内の勉強会に参加しケアに活かしている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	系列病院・施設合同での親睦会、スポーツ等の同好会があり気分転換が図れる機会を設けている。また、勤務時間中にも気分転換が出来る休憩室を確保している。	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	資格取得に向けた支援を行っている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	系列病院の地域連携部が初期相談の窓口となっており、大まかな生活情報は連携部から情報を得て事前見学・相談に応じている。情報を基に本人の思いや不安、生活状況を汲み取る努力をしている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	系列病院の地域連携部が初期相談の窓口となっている。情報を基に家族の思いや不安、生活状況を汲み取る努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	地域連携部が相談窓口となり行っている。直接電話相談があった場合は、お話を伺い対応し必要に応じて、地域連携部PSWと連絡をとっている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族のGH見学、面接相談を行い、雰囲気になじめるよう配慮している。本人・ご家族の都合もあって見学回数は1～2回くらいしか出来ない事が多い。		見学時スタッフの紹介、一緒におやつを食べたりレクリエーション参加するなどの数時間の体験入所、見学回数を増やすなど、本人やご家族の希望に応じて行うようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	裁縫や手芸など、入居者から教えてもらう場面が多くあり、お手玉や数え歌など昔ながらの遊びを共に楽しむ機会を多く持っている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ケア会議の中で入居者の様子や職員の関わりを伝え、話し合いながら協力関係が取れるようにしている。ご家族の状況によっては面会に来られない方もいるが、短時間の面会でもご家族の状況に配慮しながら、様子を伝え家族の思いを引き出すようにしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人・家族の思いや状況を受け止めながら、時々外出や外泊を勧めたり、行事への家族の参加を促している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の了承のもと、友人や知人の面会の機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係性についてスタッフ間で情報共有している。入居者同士で談話したり、共に針仕事などの趣味やレクリエーションを楽しむ関係ができています。必要に応じて入居者の思いを聞き取り入居者同士の良好な関係が続けられるよう支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	心身状態の変化で入院となった場合は、入院先と連携を取り面会に行ったり家族とも連絡を取り合っている。長期入院となったり、他施設入所で契約終了したあとの関わりを持つ機会は、ほとんどない。		今後、必要に応じて連携を取り合ったり、相談に応じていくようにしていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言葉や表情から真意を推し量ったり、生活の場面での希望の把握は出来ている。暮らし方の希望・意向については、意思疎通困難な方には、ご家族から情報を得るようにしている。		センター方式の活用を深めていき、今後も本人本位の視点に立った把握ができるようにしたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日常会話の中で本人の話を引き出す工夫をしており、内容から経過の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	心身状態や生活リズムの理解に努め、ほぼ把握できているが、本人や家族の言葉だけではわからない残存能力の見極めが課題である。		センター方式の活用を深め、残存能力を引き出す工夫を考えていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	おおよそ3ヶ月ごとにモニタリングを行い、利用者、家族の要望を適切に把握し、それに基づき介護支援専門員を中心に利用者、家族、スタッフと話し合った意見や気づきを反映した介護計画を作成出来るように努めている。		センター方式の活用を深めより良く生活できる介護計画を作成していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた見直し以外でも、介護計画に変更が必要と判断した時には、介護支援専門員が中心となり本人、家族、スタッフと話し合い現状の範囲で本人、家族の要望を出来る限り考慮した新しい介護計画を作成するように努めている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は介護計画に基づき、実践した結果や取り組み方を具体的に記入するように心掛けている。記録の情報はカードックスにて共有しながら介護計画の見直しに活かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、買い物や外出の支援をしたり、受診介助等対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者が地域生活になじめるよう、町内会や民生委員と連携を取りイベント参加したり、ボランティアによるレクレーション等協力いただいている。また、消防職員にきていただいて救急時対応(心肺蘇生等)訓練を実施している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	状況に応じて、福祉用具の活用で介護支援専門員の専門業者と話し合ったり、訪問理美容サービスを利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	月1回連携会議があり、ケアマネージャー間で連携をとり必要があれば共働出来る体制ができています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	系列の病院から訪問診療を受けたり、疾患に応じてかかりつけ医での医療を受けられるよう、受診介助等支援し各医療機関と連携をとっている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人が精神科を専門とする医療機関であり、入居者は認知症についての診断や助言を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を管理者として配置しており、日頃の健康管理や医療面の相談、対応を行っている。24時間連絡体制をとり、状態の変化にも対応している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	法人内の医療機関、関連施設と合同の会議を定期的に行い、早期退院に向けた話し合いをしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	加齢や疾患から予測される状態について、入所時から本人や家族に説明し意向を確認して、施設で対応できる事についての話し合いをしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向をふまえて、かかりつけ医と連携を取り予測される事態の対応や急変時の対応について話し合っている。また、入居者のその時々ADLレベルを見極めて必要な支援をしていくようスタッフ間で話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの生活環境や支援の内容、注意点について関係機関と連携を取り情報交換している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>記録については、他入所者の名前を出さないよう配慮している。ミーティングを活用して、入居者への言葉掛けや関わりについて話し合うことで意識の向上を図るよう努めている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>場面に応じて希望や思いを引き出し、飲み物や食べ物などの嗜好を確認して自分で決めてもらえるよう働きかけている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、入居者の体調やペースに合わせて柔軟に対応している。(外出やレクリエーション、毎日の体操など、する、しない希望を尊重している)</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>個々の習慣に合わせ、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。訪問理美容室利用し、希望に合わせてパーマや毛染めを行っている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事のメニューはある程度決まっているが、希望する入居者には下ごしらえや配膳等一緒に行ってもらい、準備段階から食事を楽しんでもらうように支援している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者個々の嗜好の把握はできており、外出時に好みのものを購入支援している。酒やタバコについては、希望する入居者がいないため現在は支援はないが、今後希望に応じて検討していく。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者個々の排泄パターンの把握はしており、夜間オムツを使用している入居者もいるが、日中はトイレ誘導を行い、日中のオムツをはずせるようになった入居者もいる。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ユニットごとに入浴の曜日を決めているが、入居者の希望や外出予定などに配慮して曜日や時間をずらしていくなど配慮している。時間は午前中に集中しがちである。(午後に外出やレクリエーションする機会が多いため)		入居者が希望の時間に入浴を楽しめるよう業務の見直し検討したい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者一人一人の体調や希望を考慮して、自由に休息がとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味の針仕事や花の世話、地域の行事参加、外出支援等、役割づくりや楽しみごとを作るよう努力しているが、張り合いや楽しみを引き出すに至っていない入居者もいる。		センター方式の活用を深めて本人の希望に添った役割作りをしていきたい。誕生日会などの催し、そこでの会話を通じて、利用者の個性や生活の姿を理解し活力を引き出す支援をしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談しながら、入居者の状況に応じて、小額のお金を所持してもらい買い物支払い支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望や天候に応じて、入院中の家族の面会に連れて行ったり、買い物等の外出支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	レクリエーション計画立てる中で、入居者が行きたいと思う場所への外出の機会をもうけている。(動物園、日帰り温泉等) また、ご家族と共に外食を楽しんでいる入居者もいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	事務室の電話は、希望時いつでも使用できるようになっており、気軽に電話をしやすい雰囲気作りを心掛けている。手紙を出す希望はほとんどないが、年賀状を出す支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は定めていず、ご家族や友人がいつでも気軽に来やすい雰囲気作りを心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	系列のグループホーム等と共同で身体拘束廃止委員会を発足しており、身体拘束の内容と弊害についてスタッフ理解している。委員会の中でケアの振り返り、自覚のない身体拘束が行われていないか話し合い、スタッフの周知を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の外出傾向、帰宅願望の状況把握はしており、その都度対応心掛けているが、近隣に家が少なく事故の可能性が高いため、日中やむを得ず玄関施錠している。ご家族にはその旨説明しており理解いただいている。		無断外出を未然に防ぐためのケアやかかわりの工夫、近隣の協力の促進をしていき、鍵を掛けないケアを進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は、ホールが見渡せるところにスタッフがついて、記録をしたり、入居者と共に過ごしたり、状態把握に努めている。死角になる場所が多いが、自室にいる入居者についても、プライバシーに配慮しながら、昼夜の定期巡回で所在や様子を把握するようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物の管理は危険物チェック表にて確認、洗剤は本数確認しホーム名をつけている。ほか入居者の状況にあわせて管理方法を決めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント、アクシデントレポートを活用、SHELL分析を行い再発防止策を出し、ミーティングなどで情報共有している。系列ホーム共同で事故防止対策委員会を作っており、事故の情報共有化、対策について検討している。リスクマネジメント研修にもスタッフ参加している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルを作っており、周知を図っている。消防を招いての救急蘇生訓練はじめ勉強会も実施している。		今年度も消防を招いての蘇生訓練を実施したい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2～3回避難訓練を行っている。また、法人での防災マニュアルをもとに、ホーム独自の災害時マニュアル作成して周知を図っている。地域の協力体制については、まだ確立されていない。		地域運営推進会議を進めていく中で、協力を呼びかけていきたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプランの説明の中で個々のリスクについて話しており、入居者本人や家族の意向を確認の上、暮らしの制限を最小限とした対策を共に考えるようにしている。		安全に配慮しながら、鍵をかけないケアを目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具や台所水回りの清潔、衛生を保つよう、スタッフで取り決めをして実行している。食材はほぼ毎日業者から翌日分の食材が必要量届いており、食材が残らないよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関に、親しみやすい表札や飾り付けをしている。冬など季節によっては、飾り付けが目立たなかったりして殺風景になりやすい。		季節感のする飾り付け(アイスクャンドル、花のプランターなど)を華美になり過ぎない程度にやっていきたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	玄関前は季節に応じた飾り付けを行い、廊下や居間に手作りの装飾品や行事の写真を置いて暖かな雰囲気を出すようにしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間にソファとテーブルのコーナーがあり、入居者同士思い思いの場所で一緒にテレビをみている。ユニットの居室側廊下にもソファがあり、時折利用している人もいる。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時に本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や希望の生活用品用意使用されている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	午前中の清掃時に毎日換気をするようにしている。個室についても、入居者の状況に合わせて室温調整、換気をこまめに行っている。トイレについても換気扇や消臭剤使用で臭いが残らないよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホールや居室は障害物や不安定な物を極力置かないよう配慮し、廊下に手すりは取り付けられていて状態に合わせて使用している。 浴室脱衣所に手すりがなく、洗面台や椅子につかまってもらったり、介助している。</p>	<p>手すりの取り付けもしくは、手すりに代わる物を入居者の状態に応じて置くことを検討したい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各部屋、トイレ、浴室に、目線に合わせて表札や目印を付けている。物の置き場所にも配慮し、誤認や錯覚を起こさないように気をつけている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>季節により、野菜作りや草むしり、花の手入れなどを楽しんでいる。</p>	<p>テラスにおけるパラソル、椅子の購入を検討し、屋外で軽食などを楽しめる空間作りを検討したい。</p>

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 心身の状態変化に早期に対応、関係医療機関と連携を取り受診援助している。
 月2回音楽療法実施しており、入居者にも喜ばれている。
 レクリエーション計画立案にスタッフが交代で取り組み、外食や日帰り温泉など入居者と共に楽しむ機会を作っている。